

任意

麻しん風しん混合(MR)及び風しん予防接種の説明書

大阪市風しんワクチン接種費用助成事業用

この予防接種は任意接種で、ご本人が接種を希望する場合に実施するものです。効果や副反応などについては十分に理解した上で接種してください。

1 病気について

○麻しん(はしか)

麻しんウイルスの空気感染（ウイルスが空気中に飛びだし、人に感染すること）、飛沫感染（咳やくしゃみなどにより感染すること）、接触感染によっておこる病気です。潜伏期間（感染してから症状がでるまでの期間）は10～12日です。感染力が強く、免疫がないとほとんどの人がかかる病気です。発熱、咳、鼻水、めやに、発しんを主症状とします。最初3～4日間は38℃前後の熱が出て一時おさまり、再び39～40℃の高熱と発しんが出ます。高熱は3～4日で下がり、次第に発しんも消失します。

主な合併症としては、肺炎、気管支炎、中耳炎（100人に7人）、脳炎（1,000人に1人）があります。また、亜急性硬化性全脳炎（SSPE）という慢性に経過する脳炎は約10万人に1人発生します。また、麻しん（はしか）にかかった1,000人に1人が死亡すると言われています。

○風しん(三日ばしか)

風しんウイルスの飛沫感染（咳やくしゃみなどにより感染すること）によっておこる病気です。潜伏期間（感染してから症状がでるまでの期間）は2～3週間です。軽いカゼ症状で始まり、発しん、発熱、首や耳の下のリンパ節腫脹、目の充血などを主な症状とします。

まれに脳炎、血小板減少性紫斑病などの合併症が、2,000人～5,000人に1人くらいの割合で発生することがあります。また、大人がかかると、発熱や発疹の期間が子どもに比べて長く、関節痛がひどいことが多いとされています。

妊娠20週ごろまでの妊婦が風しんに感染すると、先天性風しん症候群（先天性心疾患、白内障、難聴等）をもつ子どもが生まれる可能性が高くなります。そのため、女性は妊娠前に予防接種を受けておくことが大切です。また、周囲の方は風しんにかかって妊婦に感染させないために、風しんの既往の確認や予防接種について考慮する必要があります。

2 予防接種の効果について

予防接種を受けた人の約95%は麻しん風しん（風しん単独ワクチンの場合は風しんのみ）の免疫を獲得できるとされています。

3 予防接種の副反応について

麻しん風しん混合(MR)ワクチン ※通常このワクチンを使用します

このワクチンは弱毒生ワクチンです。接種直後から数日中に接種部位の発赤、はれ、しこりなどがみられることがありますが、これらは一過性で数日中には消失します。また、接種後2週間以内に発熱、発しんがみられることがあります。

ごくまれに重い副反応としてアナフィラキシー様症状（ショック症状、じんましん、呼吸困難など）、急性血小板減少性紫斑病（紫斑、鼻出血、口腔粘膜の出血等）、脳炎及びけいれん等が報告されています。

【風しん(単独)ワクチン】

主な副反応は、発しん、じんましん、紅斑、かゆみ、発熱、リンパ節のはれ、関節痛などが認められています。ごくまれに生じる重い副反応としては、ショック、アナフィラキシー様症状があり、また、急性血小板減少性紫斑病（100万回接種あたり1人程度）が報告されています。

4 接種にあたっての注意事項

予防接種は体調の良い日に行うことが原則です。健康状態については、かかりつけ医等に相談のうえ、接種するかどうかを決めてください。

- (1) 当日、次の状態の場合には予防接種を受けることができません。
- ア 明らかに発熱（通常 37.5℃以上）がある場合
 - イ 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな場合
 - ウ 当該疾病にかかる予防接種の接種液の成分によってアナフィラキシーを起こしたことがある場合
 - エ 免疫機能に異常のある疾患を有する及び免疫抑制をきたす治療を受けている場合
 - オ 現在、妊娠している場合
 - カ その他、医師が不適当な状態と判断した場合

【女性への注意事項】

妊娠している人、又はその可能性がある人は接種することができません。

妊娠可能な女性は、あらかじめ約 1 か月間避妊した後接種してください。

（妊娠していない時期、すなわち生理期間中、又はその直後がよいといわれています）

また、ワクチン接種後約 2 か月間は妊娠しないように注意してください。

（男性については予防接種前後の避妊の必要はありません。）

- (2) ワクチンの接種間隔
- ア 注射生ワクチンの接種を受けたあとに注射生ワクチンを接種する場合、27 日以上の間隔をあける必要があります。また、医師が必要と認めた場合には、他の予防接種と同時に接種することができます。
- 参 考 注射生ワクチン：麻しん風しん・水痘・おたふくかぜ・BCG・黄熱など
- イ 輸血又はガンマグロブリンの注射などを受けたことのある人は 3～6 か月以上あけて接種してください。
- (3) 接種後の注意
- ア 接種後 30 分は体調が変化することがありますので安静にし、医師とすぐに連絡がとれるようにしましょう。
 - イ 接種後に高熱やけいれんなどの異常が出現した場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
 - ウ 接種後 4 週間は体調に注意しましょう。また、接種後、腫れが目立つときや体調の変化があるときなどは医師にご相談ください。
 - エ 接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は問題ありませんが、接種部位をこすることはやめましょう。
 - オ 接種当日は激しい運動はさけてください。その他はいつも通りの生活で結構です。

5 予防接種による健康被害救済制度について

ワクチン接種によって重篤な副反応が発生した場合は、任意の予防接種であるため、医薬品の副作用による健康被害として独立行政法人医薬品医療機器総合機構法に基づく救済制度の対象となります。

（救済制度相談窓口）

電話：0120-149-931（フリーダイヤル）

受付日・時間：月～金曜日（祝日・年末年始除く）9時から17時

○大阪市風しんワクチン接種費用助成事業について

対象者：接種時に大阪市民（住民登録のある方）で、風しん抗体を有していない又は抗体価の低い「妊娠を希望する女性」又は「妊娠を希望する女性の配偶者、同居者（妊婦の配偶者、同居者含む）」

（「風しん抗体を有していない又は抗体価が低い」とは、風しん抗体価が HI 法で 16 倍以下、EIA 法 8.0 未満などの値にある者をいう）

※ただし、以下の方は対象外とします

①妊娠中の女性

②平成 25 年度以降実施した風しんワクチン接種費用助成事業により麻しん風しんワクチン又は風しんワクチンを接種した方

③麻しん風しん混合ワクチン又は風しんワクチンの接種日が申請日において 5 年以上経過している方

④妊娠を希望する女性の同居者（妊婦の同居者含む）のうち、麻しん風しん混合ワクチン又は風しんワクチンの接種日が令和 6 年 3 月 31 日以前の方